

令和 7 年度事業報告

(令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで)

I. 法人の状況に関する事項

令和 7 年度は、予期せぬ熊対策に迫られながらも、研修・体験活動（淳風美俗育成事業）を計画どおり実施することができました。また、染色、染料及び色彩に関する研究等事業（学術研究事業）も、研究成果を上げることができ、論文集を刊行できました。

収益事業は、事業用賃貸建物 4 棟の管理及び 2 件の土地賃貸を滞りなく行い、公益目的事業の予算規模に応じた収益を得ることができております。

関係各位のご支援ご協力により事業活動を順調に継続できましたこと深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

役員に関しましては、理事が、任期満了に伴う退任 1 名、新任 1 名、重任 4 名が選出され、年度を通じて 5 名、監事は 2 名の体制で推移致しました。

II. 事業の状況

1. 淳風美俗育成事業（公益目的事業 1）

キャンピング指月林敷地内にあるキャンプ場、研修棟、グラウンドや染料植物園を活用し、研修・体験希望者の目的や年齢構成を常に意識した六つのプログラム（キャンピング、瞑想、作務、茶道、草木染、スポーツ）をもとに活動を継続いたしました。

活動実績は、53 団体、来場者総数 1168 人、活動日数 62 日で、前年より 6 団体増加しました。（それぞれの前年度実績は、47 団体、1095 人、62 日）しかし、猛暑の影響を受け 7 月、8 月の来場者数はこの 3 年間で半減しています。その結果、春と秋に活動が集中し、活動分布に変化が見られました。

個別プログラムの状況は、以下のとおりです。

(1) キャンピング研修

22 団体（48 延団体）、1327 人の参加、56 日の活動実績です。（前年度は、29 団体、延 44 団体、1277 人、59 日）

薪での野外調理、テント宿泊、後片付けなどにおけるグループ内での協力をメインテーマとして、天候の変化、道具器具の活用、危険回避などにも意識が向くような指導に努めました。「自然の中での集団による活動・共同生活」を意識してもらうことで、全員で協力して取り組むことの大切さを実感できる内容となりました。

SDG's のゴール 12（つくる責任 つかう責任）に通じるエシカル消費活動は、施設内の資源を活用し、所員と来場者一体で取り組みを進めています。

(2) 瞑想研修

全来場団体の参加を得られるように勧めました。24 団体 (延 51 団体)、1132 人の参加、51 日の実績となりました。(前年度は 28 団体、延 46 団体、1010 人、46 日)

研修棟内で瞑想に適した環境を提供し、小学生から大学生まで広い年代から高評価を得ております。心静かに過ごすことの有用性を体感していただき、習慣化を促しております。

(3) 茶道研修

「茶の湯や所作・作法を通して、広く日本の文化に触れる」という目的を踏まえ、親しみやすい茶道体験を目指しました。限られた時間内で効果を上げるため、研修参加者の要望、年齢、経験等に応じた指導を心掛けました。本年度は、3 団体 (延 3 団体)、21 人の参加、3 回でした。(前年度は 5 団体、延 5 団体、75 人、5 回)

参加者数の伸び悩みが続いているため、もっと気軽に取り入れてもらえるような、新たな茶道体験を考案する必要性があり、今後検討を重ねてまいります。

(4) 作務研修

23 団体 (延 49 団体)、1115 人の参加、49 日の活動実績です。(前年度は 28 団体、延 45 団体、1051 人、45 日)

参加者の年齢や人員構成などを踏まえて、「来たときよりも美しく」と「次の人のために美しく」という達成感を意識できるよう努めました。草引き、落葉の清掃など季節に応じて楽しく取り組める内容も盛り込んでおります。本年は熊対策のため、木の実の生る樹木の緊急伐採をした影響で、人気のどんぐり拾いは実施できませんでした。

(5) 草木染研修

11 団体 (延 11 団体)、239 人の参加、13 回の活動実績です。

(前年度は 13 団体、延 13 団体、275 人、13 回)

染料植物園で採取した染材を基本として実施しました。化学染色とは違う、幹、枝、葉、花、根など完全に循環できる素材のみを使用し、草木染の奥深さを体験していただきました。季節折々の染材を使用し、四季を感じてもらうことも大切にしています。

(6) スポーツ研修

9 団体 (延 15 団体)、378 人の参加、15 回の実績となりました。(前年度は 12 団体、延 15 団体、418 人、15 回)

子供たちの運動能力向上に繋がることを目標に、その年代にふさわしい運動があるという理論を学習しながら、長期的な視線で取り組んでいます。グラウンドの芝は、職員による日常の手入りを欠かさず、四季を通じたドッジボールやフリスビー、夏には水遊び、秋には運動会など、広い場所で運動する機会の少ない団体に、楽しく体を動かしてもらえる環境を提供しています。

2. 学術研究事業（公益目的事業2）

繊維染色研究は、事業計画どおり年度初めに設定したテーマに取り組みました。また、年3回実施する繊維染色委員会は、研究員が一堂に会して開催することができました。

附属染料植物園で植栽している染料植物は、草木染の科学的研究、染料の保存方法の研究、草木染研修、染料植物の学習に活用しております。

(1) 繊維染色研究

本年度も研究成果を論文としてまとめ、論文集「葆光」第37号に掲載しました。AIの活用を試み多様な視点を取り入れた結果、例年より論文数が多くなりました。また、過去に発表された論文3本の総括を掲載するなど、内容が充実したものになりました。

掲載テーマ

<論文>

- ① ケラチン繊維の酸性染料染色におよぼす表面および内部荷電の影響
- ② 植物染料染色における金属媒染の一考察
—先媒染による発色効果の検討—
- ③ 藍染色における色素の存在状態と発色
—建染めと顔料浸染およびソーピングに伴う色彩変化—
- ④ 藍染における染料と顔料の違いによる心理効果
- ⑤ 藍染における染料と顔料の違いによる心理効果を用いて
人間とAI（ChatGPT）による藍らしい藍の評価

<解説>

- 羊毛繊維の酸性媒染染色におけるクロム後媒染機構の再定義

(2) 繊維染色委員会

本年度の繊維染色委員会は、以下の日程で行いました。

第1回	令和7年	8月	4日
第2回	令和7年	12月	1日
第3回	令和8年	2月	16日

(3) 附属染料植物園

附属染料植物園は、樹木系エリアと畑(低木と草花系)エリアに分け、共に植栽種の増加を求めることなく、適切な管理計画に従い、剪定、植栽、補植等を実施いたしました。特に畑エリアでは、草木染研修や学術研究用などで必要な染材を提供するために、適切な時期に、幹、枝、葉、花卉などを採取し、乾燥の後、保存しております。また、草木染

研修の際には、季節、種類によっては来場者が自ら染料植物園で採取した染材を使用することも可能です。

- ① 樹木系エリアでは、定期的に標準管理スケジュールと現状を確認し、専門家の判断も仰ぎながら、適宜、剪定、補植等の必要な手入れと必要な処置を取っております。
- ② 畑エリアでは、栽培計画に基づき主に草花・野菜系染料植物を育て、低木系染料植物の植栽とともに、染材として提供できる体制を整えております。
- ③ 染料植物説明板（全 218 枚）を維持管理し、研修活動時の自然への興味向上や草木染学習・染料植物園見学に活用しております。来場時のオリエンテーションやクイズなどに活用できるよう、記載内容の見直しや更新も適宜行いました。
- ④ 「食」に関する知識、「食」への感謝などを経験できる良い機会となるように、野外調理などで食材として使用できる野菜や果実を栽培し、植付け→収穫→野外調理の一貫した体験を可能とする体制を整えています。

3. 収益事業

不動産賃貸管理事業の管理手数料収入は、期中の家賃、共益費の値上げにより、計画を上回る収入となりました。不動産賃貸事業の賃料収入は計画どおりの収入でした。

(1) 不動産賃貸管理事業

	期	首	期	末
事業用建物	4 棟	1 0 相手先	4 棟	1 0 相手先

(2) 不動産賃貸事業

2 件の土地が年度を通して稼働しました。

4. 熱中症対策について

令和 7 年 6 月 1 日付で「職場における熱中症対策の強化」が事業者には義務付けられ、当法人でも従来の対策に加え、以下のように強化を図りました。

- ① 来場者の熱中症の予防と防止のためにデジタル温湿度計を、かまど、グラウンドの 2 ヶ所に設置し、指導者が注意喚起を促せるよう定期的に確認しています。また、大型扇風機を 2 台設置し、来場者が屋外活動時の暑さ対策に使用しました。万が一の熱中症初期症状に対応するため、スポーツドリンクや経口補水液を常備し、冷房の入った休憩室を準備しました。
- ② 職員に対しては、「初期症状の放置、対応の遅れ」に対応するため、屋外作業に出る際トランシーバーの携帯を義務付け、熱中症の初期症状を自覚した場合、速やか

に連絡することを認知させました。

本年度も対策を継続し、さらに有効な方法があれば、積極的に取り組む予定です。

5. ホームページ更新について

サーバーの更新に伴い、ホームページも本年度中に更新作業を終えました。

学術研究事業で発行された論文集「葆光」についても、広く閲覧できるよう、第26号から第36号については掲載をしましたが、それ以前の既刊分についても公開を目指します。

以 上